

(別紙)

## 第1回キャリア教育アワード 最優秀賞

### パナソニック株式会社

首都圏・その他

#### 社会科・環境学習プログラム「エコ・モノ語(がたり)」 ～モノづくりの流れとそこに关わる人たちのストーリー～

小学校の社会科単元「工業生産を支える人々」に沿った教員連携型の全5時間(推奨)のプログラムを大きな特徴とし、子どもたちの思考を促しながら、学習テーマについての理解を深める構成となっている。また、社員が講師として学校に出向き、子どもたちと直接触れ合う出前授業型と共に、遠方で講師が出向くことの出来ない地域には、DVDで代用できるプログラム・教材を届け、教員が実施可能な教材活用型プログラムの二本立てで展開している。生活に身近な家電製品をテーマに、環境への努力、工夫について学ぶことができる体系的な内容となっている。キャリア教育の視点からは、モノづくりを支える様々な役割の人々の連携により仕事が成り立っていることや、開発に数十年も時間を要した冷蔵庫の真空断熱材の開発ストーリーを事例に、自分や仲間を信じて、努力を積み重ねることの大切さなどを伝えている。



実施対象学年	小学校高学年(主に5年生)、 中学校1～3年生(主に3年生)
授業に要する時間	45分×5回(内、出前授業1回) ※中学生プログラムは50分×4回(内、出前授業1回)

## 第1回キャリア教育アワード 小宮山審査委員長賞

### 横須賀商工会議所

神奈川県・横須賀市

#### 中学生“自分再発見”プロジェクト

横須賀商工会議所、横須賀市教育委員会、横須賀市が連携し、商工会議所内に“横須賀キャリア教育推進事務局”を設置。商工会議所職員とキャリア教育コーディネーターを配置し、中学校の総合的な学習の時間を体系化し、1年を通して子どもたちの職業観・勤労観の醸成を目的とした教育プログラムを実施する。教育プログラムは、●グループディスカッション「出会いが心を揺さぶる」●県専門学校各種学校協会との連携「私の仕事教えます」●マナー研修「ビジネスマナー研修」●ポスターセッション「私の仕事紹介します」。その他中学生が地域活性化に協力するプログラムも実施している。



実施対象学年	中学校1～2年生
授業に要する時間	教育プログラムによる(年間のカリキュラムを体系化する中で、プログラムによって時間配分をする)



# 第1回キャリア教育アワード 優秀賞

## 会津若松商工会議所青年部

### 福島・その他 ジュニアエコノミーカレッジ

ジュニアエコノミーカレッジは、1チーム5名を一つの会社とし、会社の設立、資金の調達、商品企画・製造・販売、決算、納税、給与・配当金の支払い、解散までの会社の一連の活動を行うプログラムである。1会社は株主10名から1000円ずつ計10000円、より大きな販売を行いたい会社は、銀行（開催団体）から10000円を借入、最大で20000円を元手とした販売を行う。5名のメンバーは、社長、財務部長、商品部長及び残り2役職（会社ごとに決めてよい。例：広報部長、呼びこみ部長、広報部長、副社長など）と各自が役割と責任があり会社を運営する。こうした活動の機会を他県にも提供している。



実施対象学年	小学校5年生、6年生
授業に要する時間	ドリームセミナー（会社概要・設立など）：3時間 アクティブセミナー（事業計画）：2日合宿（約12時間） 販売実践6時間、まとめセミナー（決算・事業報告）4時間、 表彰式2時間 計5セミナー、6日、27時間

## 株式会社シマノ

### 大阪 21世紀の自転車を開発するのは君たちだ！ “こんな自転車（レンタサイクル）欲しかったん！”

目標は、子どもたち一人ひとりに社会に出たときに力強く生きることのできる力、「思考リテラシー」を付けること。思考リテラシーとは、自分は社会や組織の一員としてどうするのかを考え行動することである。授業進行は地域の課題を解決するレンタサイクルを企画せよというミッション出しをし、まずは自転車の構造を分析。次に地域の課題を考えさせた上で自転車を企画し発表する。実社会で実際に経験している社員が自身の経験と重ねて説明することで子どもたちも真剣に取り組んでいる。



実施対象学年	小学生5、6年生
授業に要する時間	20時間（シマノ担当時間5時間：第1・2時間目ミッション・自転車分析、第12時間目繰り返し直し、第19時間目最終審査会、第20時間目振り返り）

## 新生フィナンシャル株式会社

### 全国 金銭基礎教育プログラム MoneyConnection

ニート状態に陥る原因の一つに「お金に関する正しい知識や金銭感覚の欠如」があることに着目。生きていくために必要となるお金やモノの価値について考え、多様化する雇用形態や、働き方による生活スタイルの違いを知り、長期的な視野で「お金」と「人生」について考える機会を高校生に提供している。「働くこととお金」について学ぶ「稼ぐ」編、モノの価値と自分の価値観について学ぶ「使う」編で構成され、一人暮らしを始めたら一体生活費がいくらかかるのかを計算し、年齢、職業、雇用形態、月収などを設定したカードを使いながら将来の生活をシミュレートしたり、グループで話し合うことで、楽しみながらお金の本質を考えるプログラムとなっている。



実施対象学年	主に高校1～3年生
授業に要する時間	1プログラム実施の場合：45分～50分 2プログラム実施の場合：90分～100分

## 日本アイ・ピー・エム株式会社

### 首都圏・その他 よりよい地球をめざして～次世代リーダー育成支援プログラム～ 理科キャリア教育／環境キャリア教育／国際・英語キャリア教育

日本IBMでは2008年から教育現場を熟知したNPOと連携し教育現場のニーズに即した授業案を開発、教育委員会の支援も得て広く授業展開をしている。授業は理科・環境・国際・英語といった教科教育や個別テーマ性の高い教育活動と自発的参加の社員ボランティアを通じてキャリア教育とを兼ね備えた内容で、講義だけでなく、ゲームや音声認識技術などITを用いた学習体験や、エンジニア体験活動を盛り込み、子どもたちの授業への興味・参加意欲、理解の向上と定着を図っている。

主なプログラムは「理科・キャリア教育」①ROBLAB教室 ②トライサイエンス実験教室 ③Mentor place、「環境・キャリア教育」①Power up環境教育 ②トライサイエンス「国際・英語・キャリア教育」①Reading Companion英語教育 ②グローバルに活躍する社員によるMentor place、国際授業 等。



実施対象学年	小学校1年生～高校3年生
授業に要する時間	プログラムにより異なる。

# 第1回キャリア教育アワード 審査委員特別賞

## テックエンジニアリング株式会社

### 体験型科学教育

東京

〔「体験!レジ係」「犯罪科学捜査」「味覚の研究」〕

POSレジスターなどを使った体験型プログラムである。特別支援学校(知的発達障がい支援)での通年にわたる連続授業を実施。社会経験が少なく、家族や友人とのコミュニケーションがうまく取れずに傷つき、自信を喪失してきた生徒も少なくない中、「わかる」「できる」という自信や、社会との繋がりを実感できるようなアクティビティになるよう工夫している。年齢的には高校生でも自分の財布を持たず、しかしながら卒業後は就労し自立することを目指す生徒たちにとって、レジを使ったプログラムは、特に重要な消費行動や就業の体験となり、一生活者として、また働く大人としての意識醸成につながる。



実施対象学年	特別支援学校 高等部1～3年生 知的発達障がいの就労者
授業に要する時間	90分

## 第1回キャリア教育アワード審査委員

### ○審査委員長

小宮山宏 プラチナ構想ネットワーク 会長  
株式会社三菱総合研究所 理事長  
東京大学総長顧問

### ○審査委員

井上 洋 社団法人日本経済団体連合会 社会広報本部本部長

遠藤勝裕 公益社団法人経済同友会 幹事  
(教育問題委員会副委員長、学校と経営者の交流活動  
推進委員会副委員長)

高橋和憲 日本商工会議所 理事・企画調査部長

藤田晃之 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター  
総括研究官

梶野光信 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課計画担当  
社会指導主事

鮎沢好夫 全国中学校進路指導連絡協議会 会長  
大田区立貝塚中学校 校長

下村英雄 独立行政法人労働政策研究・研修機構  
キャリアガイダンス部門副主任研究員

宮城治男 特定非営利活動法人エティック 代表理事

林揚哲 経済産業省経済産業政策局産業人材政策室 企画官

(敬称略)